

第6章 参考データ

- (1) 都市計画道路の整備状況
- (2) 鉄道の利用状況
- (3) 都心の自転車利用圏
- (4) 都心の自転車利用圏の人口
- (5) 天神・博多駅周辺地区への自転車分担率の変化
- (6) 主要駅までの自転車利用数の変化
- (7) 自転車事故の状況
- (8) 自転車通行空間の整備状況
- (9) 市営駐輪場の整備状況
- (10) 民間駐輪場の整備状況
- (11) 放置自転車の撤去状況
- (12) 外国人入国者数の推移



第6章 参考データ

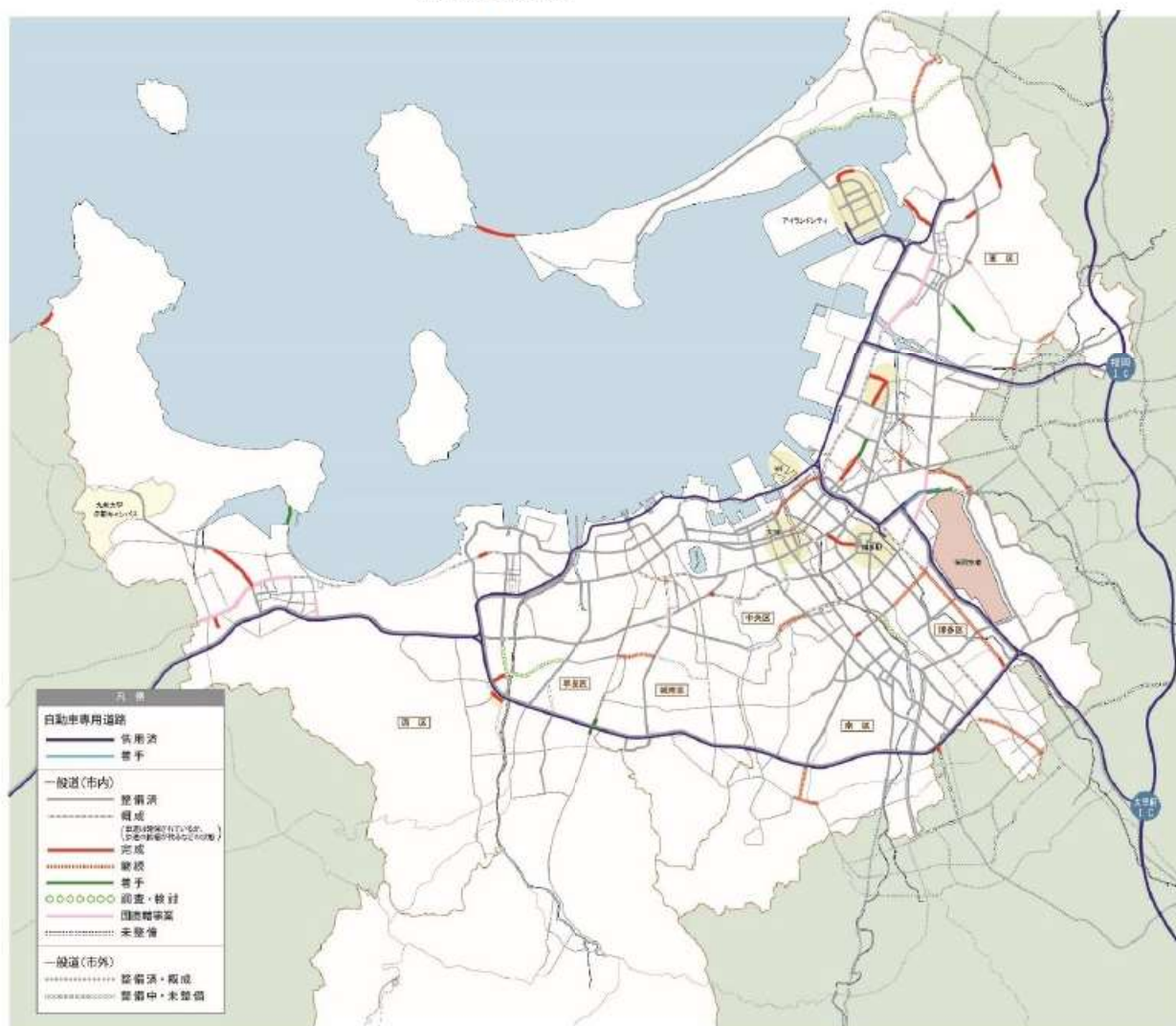
(1) 都市計画道路の整備状況

・市街地に集中する通過交通の分散化や周辺市町との広域交流・連携を支えるため、都市の骨格となる幹線道路の整備を進めており、都市計画道路の整備率は令和5年度で85.1%に達しています。

■都市計画道路の整備率

	平成13年度	令和5年度末
計画決定延長(km)	502.2	506.1
整備済延長(km)	304.3	430.7
整備率(%)	60.6	85.1

資料：道路下水道局

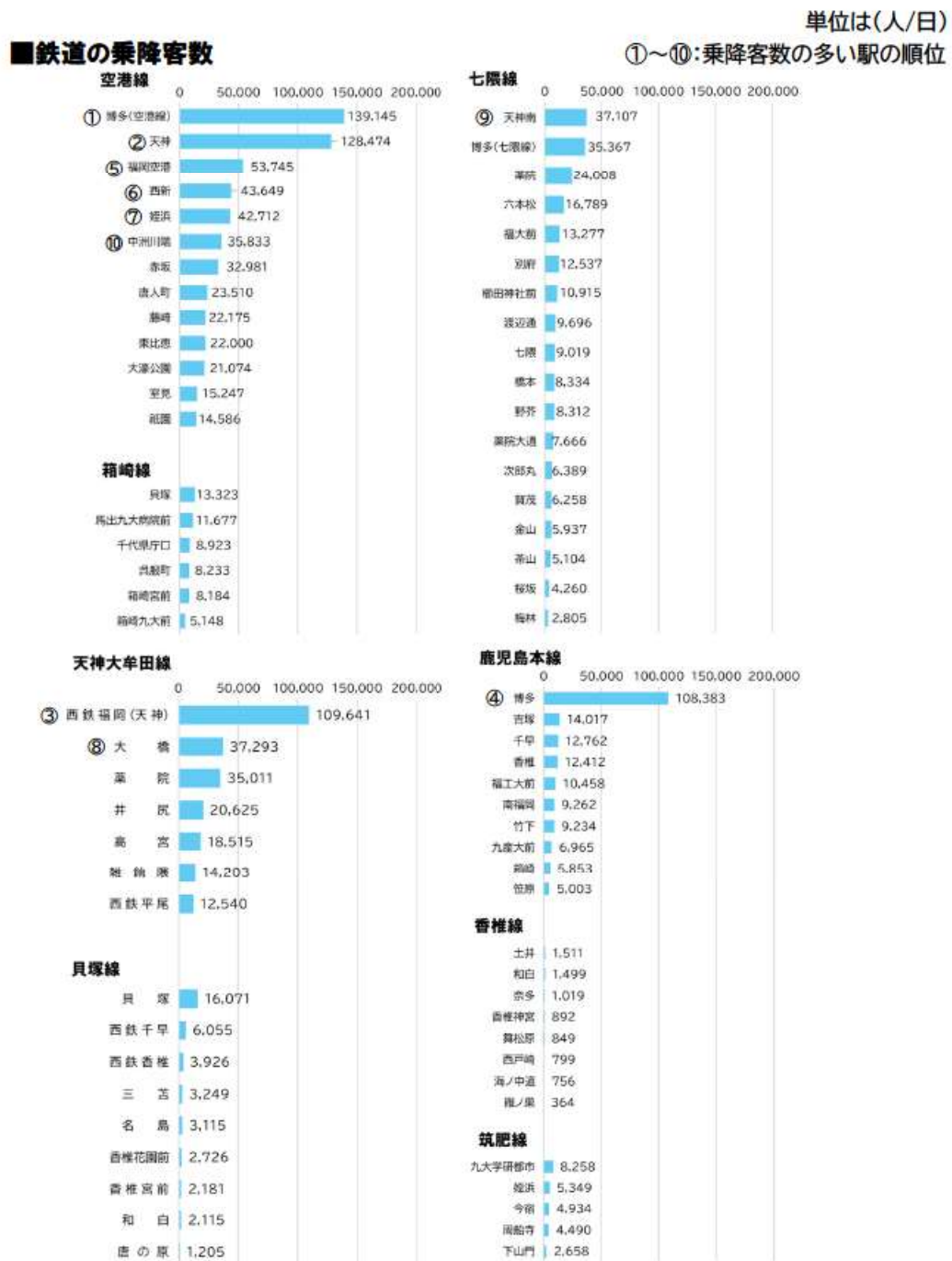


出典：福岡市道路整備アクションプラン 2024



(2) 鉄道の利用状況

- ・九州旅客鉄道(以下、JR 九州)、西日本鉄道(以下、西鉄)、福岡市地下鉄(以下、地下鉄)によって構成される福岡市の鉄道網は、増大する交通需要に対する大量輸送交通機関として大きな役割を果たしています。
- ・特に空港線において、乗降客数が多くなっています。
- ・平成29年の北部九州圏パーソントリップ調査では、移動手段として鉄道の利用割合が拡大しています。



資料:令和5年版福岡市統計書、JR 九州

第6章 参考データ

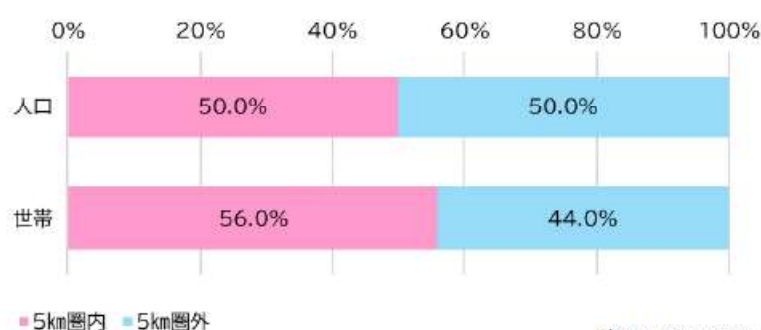
(3) 都心の自転車利用圏

- ・「第2章④ 移動距離別の分担率」によると、5km 以内の移動では公共交通機関より自転車の分担率が高くなっています。また、「(5)自転車の交通量」は、都心部（天神・博多駅地区）が多いことから、天神・博多駅地区から半径5km 圏内の地域を「都心の自転車利用圏」として設定します。

(4) 都心の自転車利用圏の人口

- ・都心の自転車利用圏内に居住している人口は全体の 50.0%、世帯数は 56.0%を占めています。

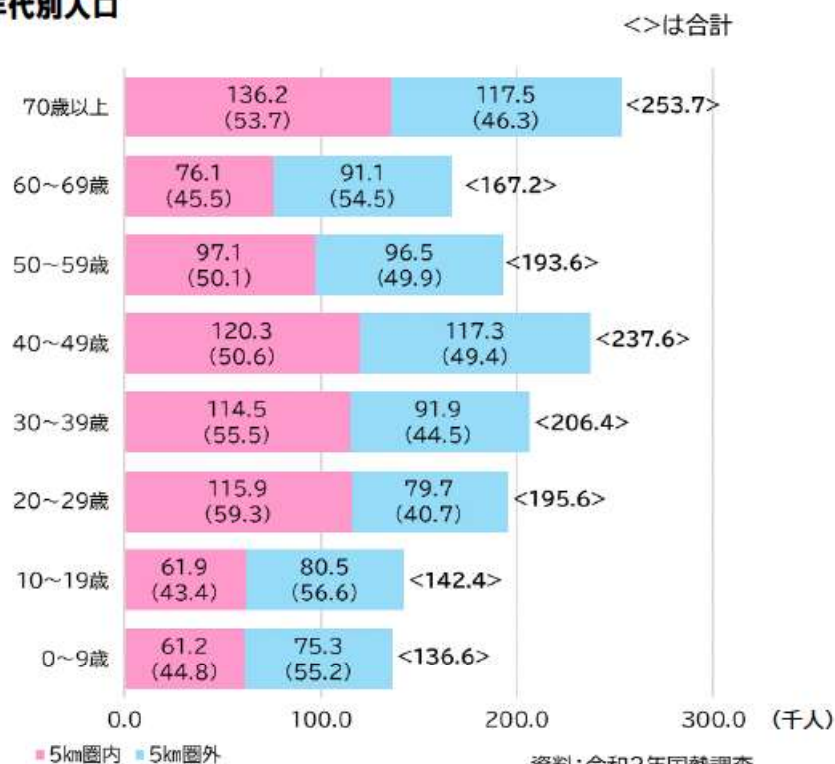
■自転車利用圏人口・世帯数



資料：令和2年国勢調査

- ・福岡市の20代人口のうち、59.3%は都心の自転車利用圏内に居住しています。
- ・福岡市は自転車を比較的良好に利用する20代、30代が都心近くに多く居住している都市です。

■福岡市の年代別人口



※()の数字は各年代人口に対する自転車利用圏内に居住する人口の割合を示す



(5)天神・博多駅周辺地区への自転車分担率の変化

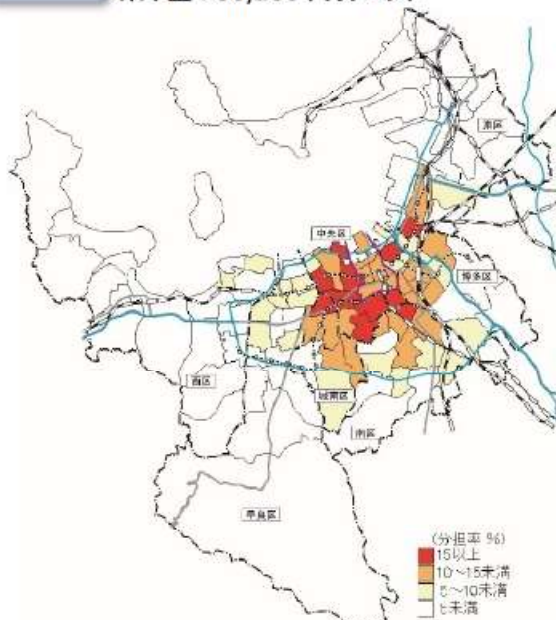
- ・天神・博多駅周辺地区へ向かう自転車トリップ数について、平成 17 年と平成 29 年を比べると、天神地区は約 6,000 トリップ減少、博多駅周辺地区は約 5,000 トリップ増加しており、天神地区よりも博多駅周辺地区へのトリップ数の方が多くなっています。
- ・博多駅周辺地区においては、5 km以上離れた場所でも自転車の分担率が 15% 以上の地域が見られます。

■天神地区への自転車分担率の変化

H17 年

自転車利用割合：8.2%

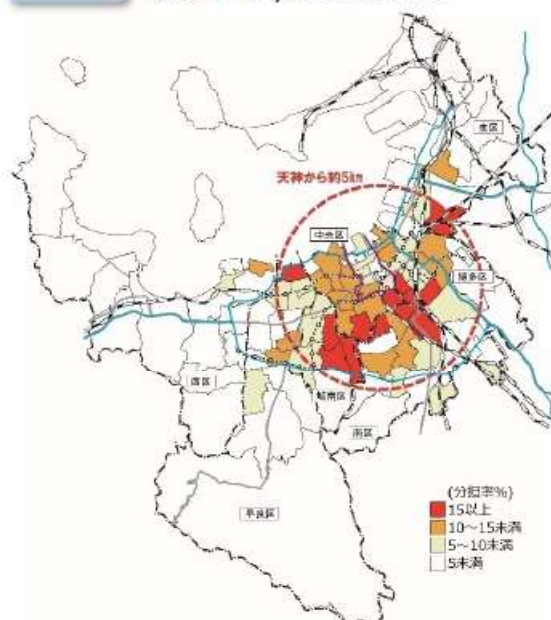
集中量：30,286 トリップエンド



H29 年

自転車利用割合：7.0%

集中量：24,209 トリップエンド

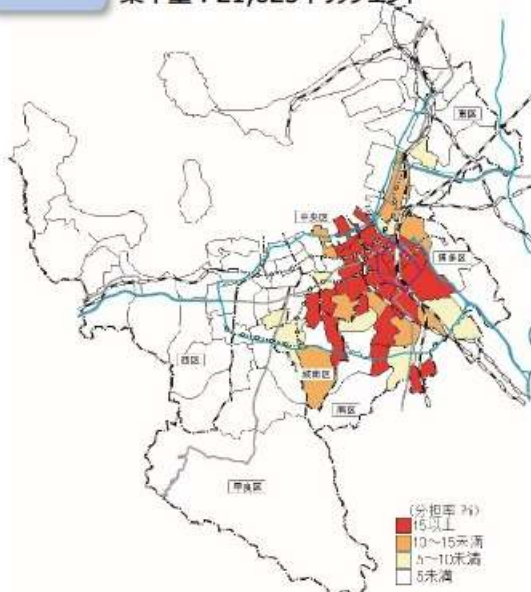


■博多駅周辺地区への自転車分担率の変化

H17 年

自転車利用割合：8.8%

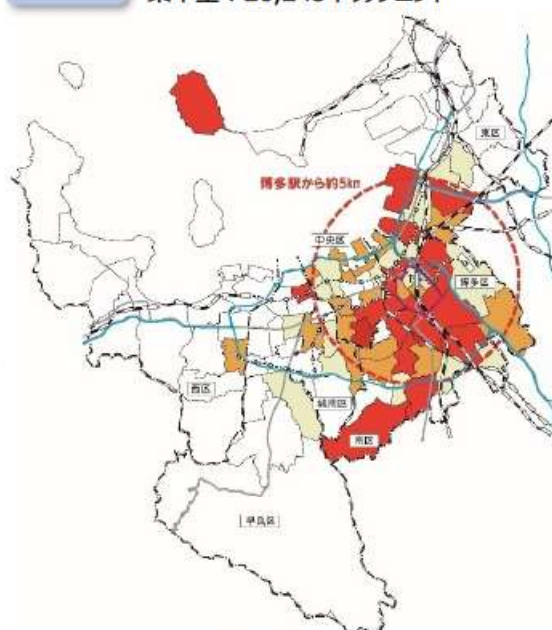
集中量：21,625 トリップエンド



H29 年

自転車利用割合：10.5%

集中量：26,243 トリップエンド

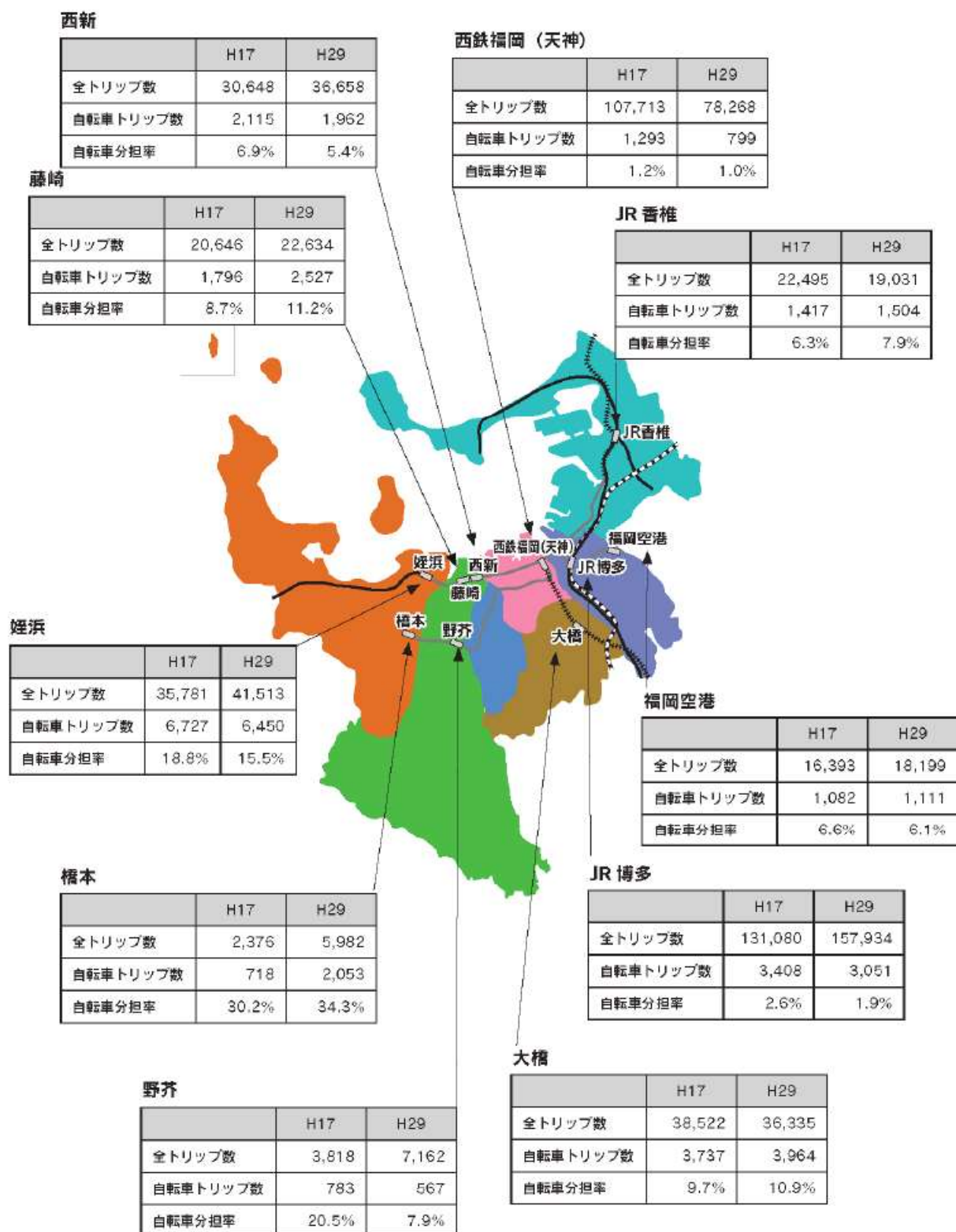


資料：北部九州圏パーソントリップ調査

第6章 参考データ

(6)主要駅までの自転車利用数の変化

- ・主要駅までの自転車の分担率をみると、都心部(西鉄福岡(天神)・JR 博多)の自転車分担率は低くなっており、姪浜や橋本では自転車の分担率が比較的高くなっています



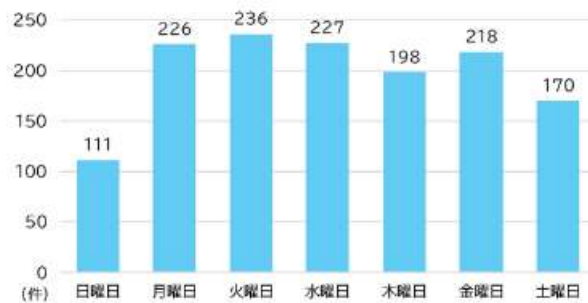
資料：北部九州圏パーソントリップ調査



(7)自転車事故の状況

①曜日別曜日別自転車関連事故件数

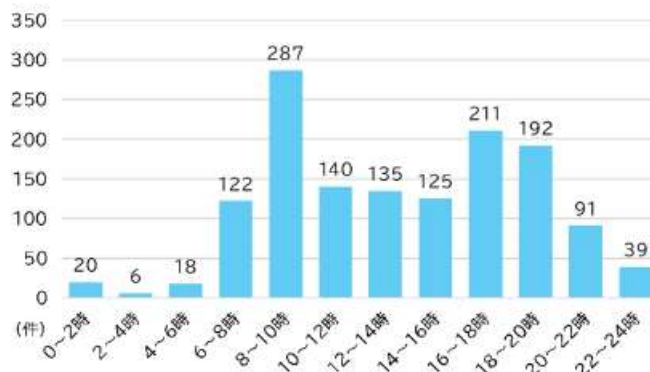
・曜日別の自転車事故件数をみると、火曜日が最も多くなっています。また、土日よりも平日に事故が多く発生しています。



資料：福岡市市民局「令和5年福岡市の交通事故」

②時間帯別自転車関連事故件数

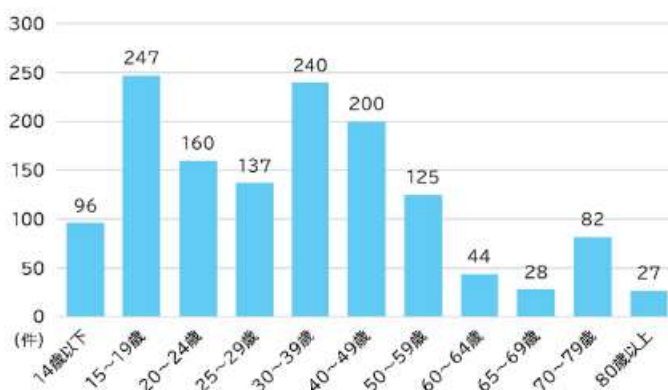
・時間帯別の自転車事故件数をみると、通勤・通学時間帯である8～10時が最も多く、次に帰宅時間帯である16～18時、18～20時の事故が多くなっています。



資料：福岡市市民局「令和5年福岡市の交通事故」

③年齢別自転車関連事故件数

・年齢別にみると、15～19歳、30～39歳の事故が多くなっており、通勤・通学で自転車を利用する人の事故が多いと考えられます。



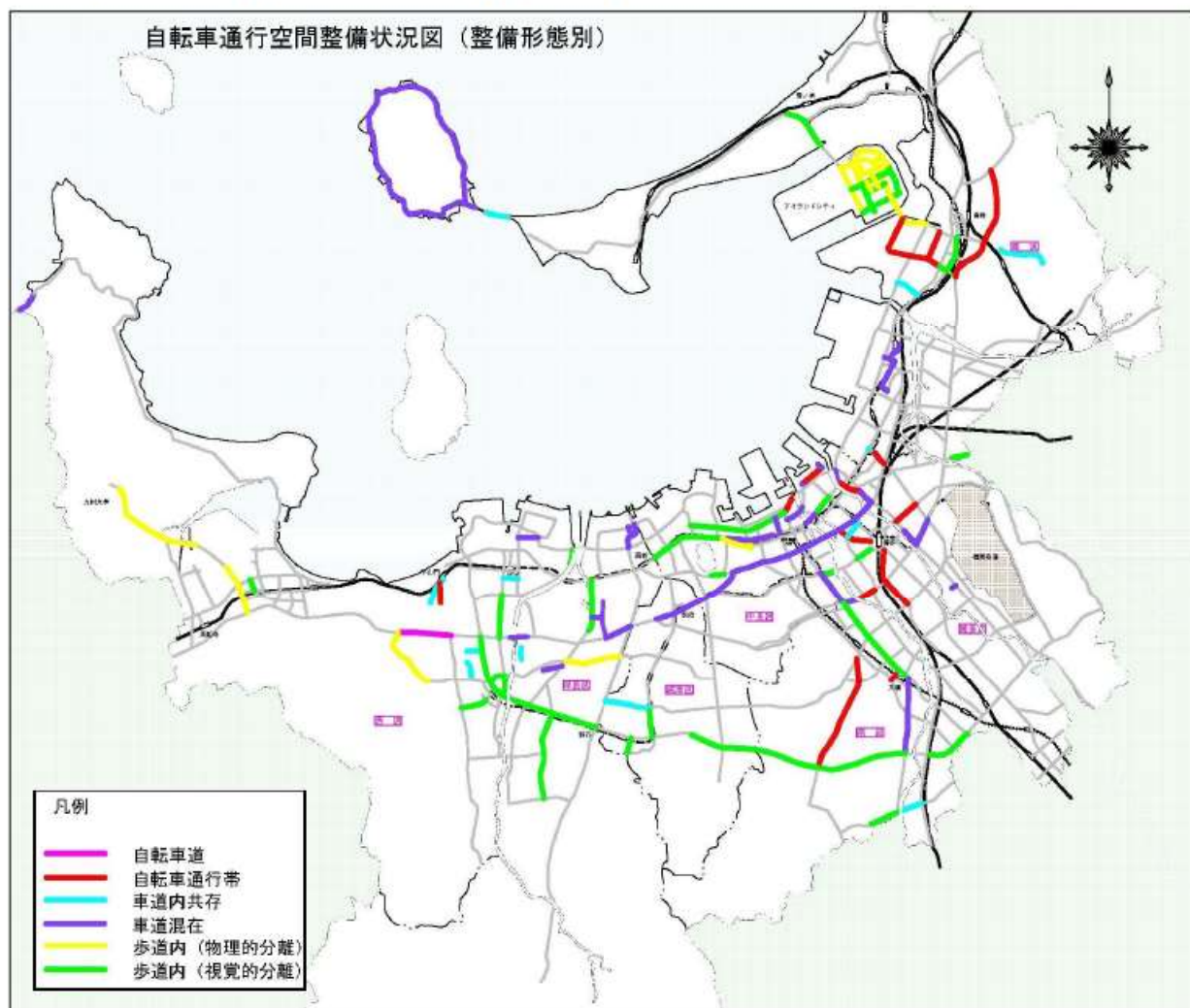
資料：福岡市市民局「令和5年福岡市の交通事故」

第6章 参考データ

(8) 自転車通行空間の整備状況

① 自転車通行空間整備状況図

- ・市内では平成14年度から令和5年度末までに延べ143.5km(市管理道路。国管理分を含めれば169.4km)の自転車通行空間を整備しています。



○自転車通行帯の整備例



市道博多駅前線

○車道内共存の整備例



市道城浜名島線

○車道混在の整備例



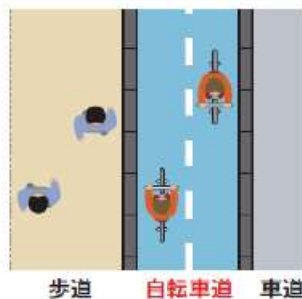
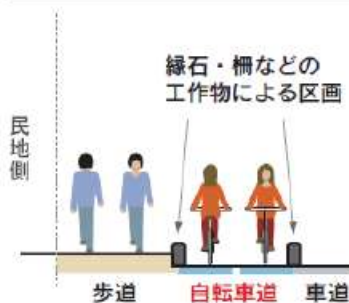
市道西新通線



●整備形態別整備延長(令和6年度末見込み)

■自転車道

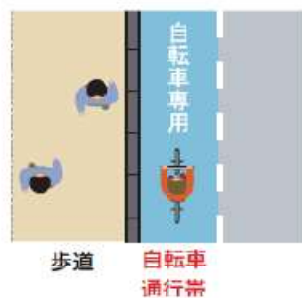
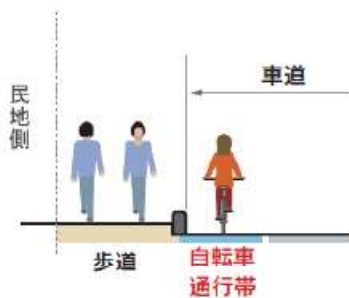
0.0 km



国道 202 号 (西区拾六町)

■自転車通行帯

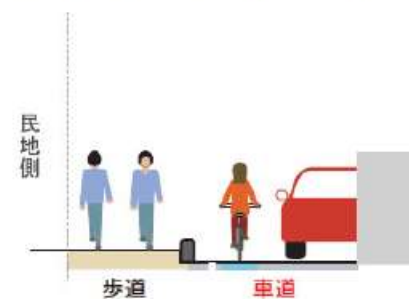
24.0 km



空港通り (博多区東光2丁目)

■車道内共存・車道混在 (矢羽根)

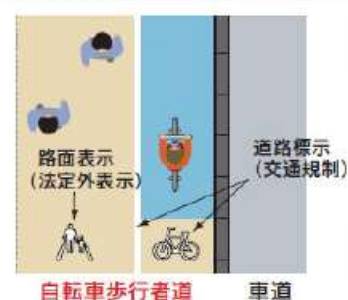
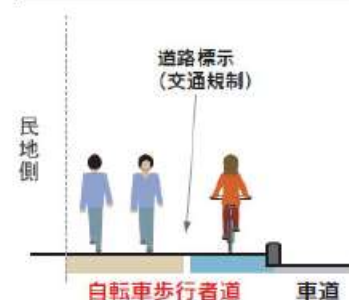
58.7 km



西新通線 (早良区百道浜1丁目)

■自転車歩行者道 (歩道内分離)

71.8 km



那の津通り (中央区舞鶴1丁目)

整備延長合計: 154.5 km

(市管理道路のみ)

第6章 参考データ

(9)市営駐輪場の整備状況

①福岡市内の駐輪場位置図

- ・市ではこれまで、鉄道駅や都心部などにおいて、駐輪需要に応じた整備を進めてきました。
- ・平成 16 年度に七隈線開業にあわせて整備した駐輪場などが一斉に更新期を迎えようとしており、計画的な更新が必要となってきています。
- ・近年は、都心部の開発による民間駐輪場の整備に伴う周辺の路上駐輪場の撤去などによって減少傾向にあり、令和 6 年 3 月末までに収容台数 51,752 台の駐輪場を設置しています。





②市営及び官民共同駐輪場の収容台数・箇所数



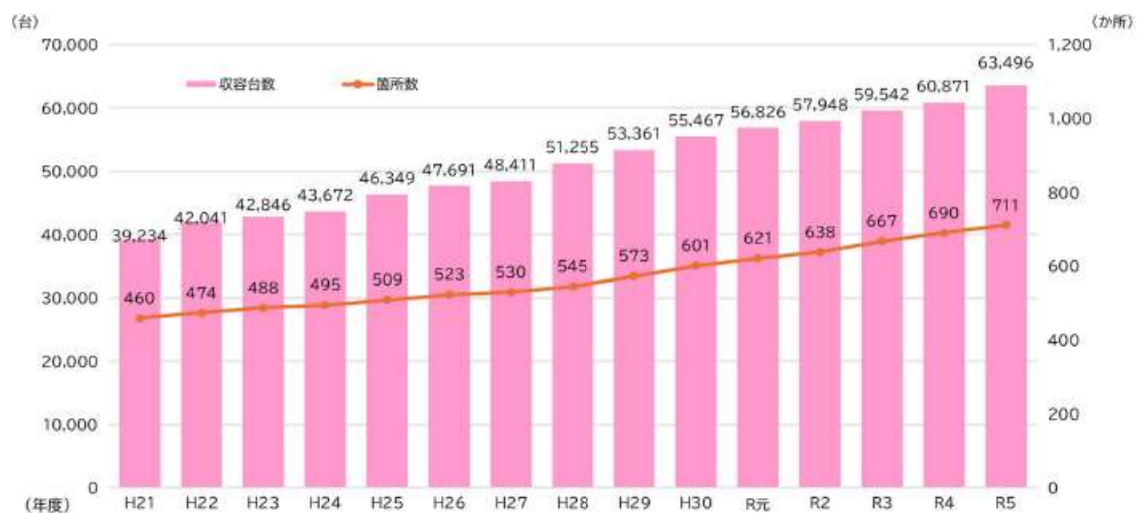
	有料	無料	合計
箇所数	100	43	143
収容台数	42,306	9,607	51,913

※令和6年3月末時点

(10)民間駐輪場の整備状況

①福岡市の附置義務駐輪場の推移

- ・附置義務駐輪場については、昭和57年に「福岡市自転車等駐車場の附置及び建設奨励に関する条例附置義務条例」を定め、令和6年3月末までに711か所、収容台数約6万3千台が整備されています。
- ・都心部においては、官民連携し、天神ビッグバンや博多コネクティッドによる民間施設建替え時に附置義務台数以上の駐輪場整備を促進しています。



資料:道路下水道局

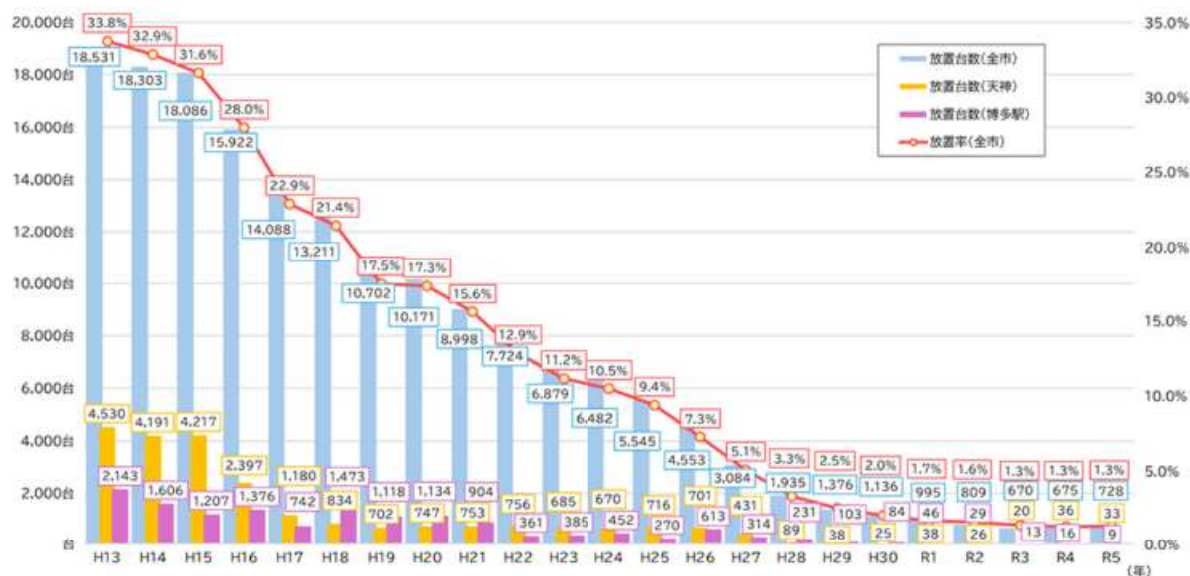
第6章 参考データ

(11) 放置自転車の撤去状況

① 年度別自転車の放置台数の状況(2章の再掲)

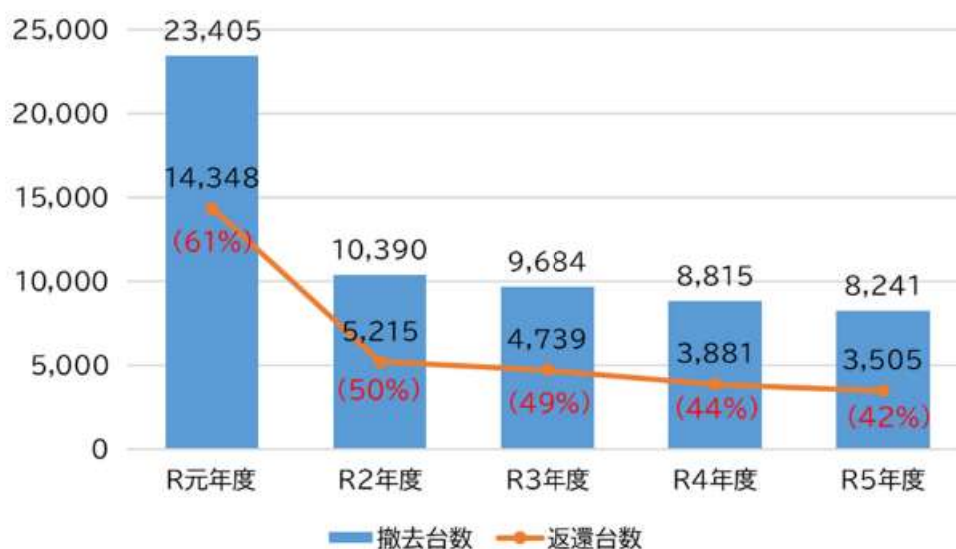
・福岡市の放置自転車の台数は、市民の皆様のご理解もあり、平成13年のピークを境に年々減少しています。

・自転車の撤去数も、定期的な撤去の実施により、令和2年以降大きく減少しています。



資料：自転車等駐車実態調査(道路下水道局)

② 年度別自転車撤去台数と返還台数(2章の再掲)



資料：道路下水道局



③自転車放置禁止区域(47 地区)

東 区	01	JR九州福工大前駅周辺地区
	02	JR九州香椎駅周辺地区
	03	西鉄香椎宮前駅周辺地区
	04	千早駅周辺地区
	05	西鉄名島駅周辺地区
	06	JR九州箱崎駅周辺地区
博 多 区	07	地下鉄福岡空港駅周辺地区
	08	JR九州吉塚駅周辺地区
	09	地下鉄祇園駅周辺地区 (地下鉄櫛田神社前駅周辺地区含む)
	10	地下鉄呉服町駅周辺地区
	11	博多駅周辺地区
	12	JR九州竹下駅周辺地区
	13	JR九州笹原駅周辺地区
	14	JR九州南福岡駅周辺地区
	15	西鉄雑餉隈駅周辺地区
	16	地下鉄中洲川端駅周辺地区
	17	西鉄桜並木駅周辺地区
中 央 区	18	地下鉄天神南駅周辺地区
	19	地下鉄天神駅・西鉄福岡駅周辺地区
	20	西鉄薬院駅周辺地区
	21	地下鉄薬院大通駅周辺地区
	22	地下鉄桜坂駅周辺地区
	23	地下鉄六本松駅周辺地区
	24	地下鉄大濠公園駅周辺地区
	25	地下鉄唐人町駅周辺地区
	26	地下鉄渡辺通駅周辺地区
	27	地下鉄赤坂駅周辺地区

南 区	12	JR九州竹下駅周辺地区
	13	JR九州笹原駅周辺地区
	28	西鉄平尾駅周辺地区
	29	西鉄高宮駅周辺地区
	30	西鉄大橋駅周辺地区
	31	西鉄井尻駅周辺地区
城 南 区	32	地下鉄別府駅周辺地区
	33	地下鉄茶山駅周辺地区
	34	地下鉄金山駅周辺地区
	35	地下鉄七隈駅周辺地区
	36	地下鉄福大前駅周辺地区
	37	地下鉄梅林駅周辺地区
早 良 区	38	地下鉄西新駅周辺地区
	39	地下鉄藤崎駅周辺地区
	40	地下鉄室見駅周辺地区
	41	地下鉄野芥駅周辺地区
	42	地下鉄賀茂駅周辺地区
	43	地下鉄次郎丸駅周辺地区
西 区	40	地下鉄室見駅周辺地区
	44	姪浜駅周辺地区
	45	JR九州今宿駅周辺地区
	46	JR九州周船寺駅周辺地区
	47	JR九州九大学研都市駅周辺地区

(参考)

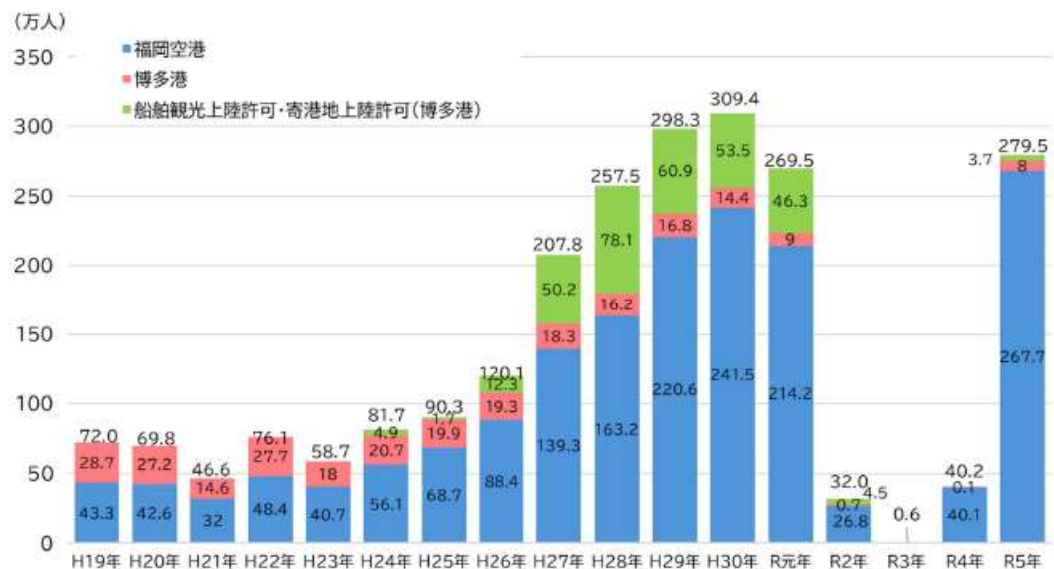
自転車放置禁止区域内では即日撤去、
域外では3日経過後に撤去できる。

第6章 参考データ

(12)外国人入国者数の推移

- ・福岡市を訪れる観光客や外国人入国者は、新型コロナウイルス感染症の影響により、令和2年度以降大きく減少していましたが、徐々に交流人口が回復しつつあります。

■外国人入国者数の推移



資料:福岡市経済の概況

福岡市自転車活用推進計画 検討委員会

■検討委員会メンバー

委員名(五十音順)	所 属
伊賀上恵子	公益財団法人福岡観光コンベンションビューロー 事務局長
神 淳英	福岡市 PTA 協議会 副会長
佐藤 信哉	株式会社 VC ドリームス 代表取締役(VC 福岡 監督)
○ 松永 千晶	福岡女子大学国際文理学部 環境科学科 准教授
吉中美保子	西日本鉄道株式会社 まちづくり・交通・観光推進部長

○:座長 ※行政アドバイザーとして国土交通省・福岡県警・福岡市から5名参加

■第1回検討委員会【開催日:令和6年8月8日】

(1)検討内容

福岡市の地理的特性、自転車を取り巻く現状及び「福岡市自転車活用推進計画」が策定された令和3年3月以降の自転車関連施策の取組状況や課題について検討を行った。

(2)主な意見

- 1)計画を策定する前提として、福岡市としてどの程度のレベルの自転車活用推進を目指すのか、目標値等を共有した方が議論もしやすく、具体策も変わるのではないかな。
- 2)福岡市は福岡県内では最も自転車通行空間整備の取組みに力を入れていると思うが、もう一歩踏み込んで整備を進めていただきたい。
- 3)附置義務駐輪場は場所によって稼働率の差があるように感じる。サインなどで分かり易く表示する工夫があっても良いのではないかな。

など

■第2回検討委員会【開催日:令和6年10月24日】

(1)検討内容

福岡市の上位計画、関連計画における自転車の位置付け、今後の役割などの「自転車活用の方向性」及び近年の動向を踏まえた基本方針及び主な視点、取組み事例案について検討を行った。

(2)主な意見

- 1)3m を満たない歩道については自転車通行可の規制は外していく流れだが、道路交通法では13歳未満と70歳以上は歩道を走ることができる。多くの人がこれを知らないなので、周知していただきたい。
- 2)例えば、駐輪場は公共や民間があるが、利用者の観点では別々の情報発信では不便。できれば統一のもので情報を追加していくような仕組みがいい。
- 3)シェアサイクルは大きな駅のポートでの発着が多い。交通結節点でいかにシェアサイクルを活用するか、モビリティハブの観点からも、交通結節点で駐輪場やポートを整備することが重要になってくるのではないかな。

など